



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

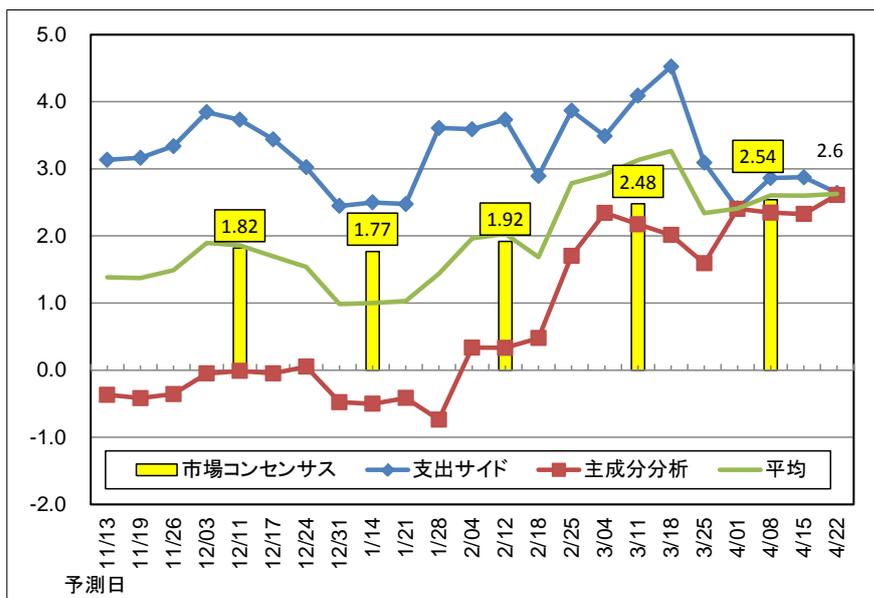
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年4月22日)

ポイント

- ▶先週発表された3月の貿易統計、2月の毎月勤労統計(確報値)、全産業活動指数、鉱工業生産指数(確報値)及び建築総合統計が予測に追加。
- ▶これらは、民間企業設備、民間企業在庫品増減、公的固定資本形成、純輸出及び雇用者報酬の予測値に影響を及ぼす。
- ▶先週発表されたデータを要約すると、公共投資は息切れ、輸出市場は回復の兆しを示している。
- ▶2月の公共工事は5ヵ月ぶりに前月比マイナス。1-2月期平均は10-12月期平均比5.4%高いが、3月の結果が気になる。夏場にかけて一時的に減速する可能性がでてきた。
- ▶1-3月期の輸出入数量はともに前期比プラスとなっており、輸出市場に回復の兆しがみられる。
- ▶今週の支出サイドモデルは、1-3月期の実質 GDP 成長率を、国内需要は大幅拡大し、純輸出が底打ちするため、前期比年率+2.6%と予測。先週(+2.9%)から下方修正された

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013年1-3月期(%, 前期比年率換算)



<先週発表されたデータは、公共投資は息切れ、輸出市場は回復の兆しを示唆>

先週(4/15-4/19)は、3月の貿易統計、消費者態度指数、2月の毎月勤労統計(確報値)、全産業活動指数、鉱工業生産指数(確報値)、建築総合統計及び景気動向指数(改定値)が更新された。これらのデータは、民間企業設備、民間企業在庫品増減、公的固定資本形成、純輸出及び雇用者報酬の予測値に影響を及ぼす。

先週発表されたデータを要約すると、公共投資は息切れ、輸出市場は回復の兆しを示唆している。2月の公共工事(建設総合統計)は前年同月比8.6%増加し13ヵ月連続のプラス。季節調整値(APIR 推計)は前月比9.0%減少し、5ヵ月ぶりのマイナスとなった。1-2月期平均は10-12月期平均比5.4%高い水準となっているが、3月の結果が気になる。補正予算の執行は遅れており、夏場にかけて一時的に減速する可能性がでてきた。この結果、1-3月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から大幅下方修正された(前期比+7.1%→同+3.6%)。

貿易統計(速報)によると、3月の貿易収支(季節調整済値)は25ヵ月連続の赤字を記録したが前月比-15.6%となった。2ヵ月ぶりの縮小であるが、1-3月期の貿易赤字は前期比26.3%拡大した。数量ベースでは、1-3月期の輸出指数は前期比+1.0%と4期ぶりのプラス。輸入指数も同+1.3%と3期ぶりのプラスとなっている。輸出入数量はともに前期比プラスとなっており、輸出市場に回復の兆しがみられる。輸入の予測値は先週から横ばいとなったが、輸出の予測値が上方修正されたため、1-3月期の実質純輸出の予測値は上方修正された(5.536兆円→5.849兆円)。

今週のCQM(支出サイドモデル)は、1-3月期の実質 GDP 成長率を、国内需要は大幅拡大し、純輸出が底打ちするため、前期比+0.7%、同年率+2.6%と予測する。先週の予測(+2.9%)から小幅下方修正された。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550